

令和2年度 江戸川区立小岩第三中学校 学校関係者評価 報告書

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を大切にし、思いやりのある人</li> <li>・心身ともに健康で、豊かな実践力のある人</li> <li>・積極的に学習し、考えて行動できる人</li> <li>・文化や伝統を尊重し、社会に貢献できる人</li> </ul>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p>目指す学校像・・・校訓である「公德」「礼讓」「明朗」な生徒の育成を目指す学校 ～江戸川一面倒見の良い学校～ 目指す生徒像・・・①自ら考え、判断、行動し、確かな学力を身に付ける姿勢をもつ生徒 ②規範意識・人権意識を身に付け、豊かな心をもつ生徒 ③自主性・社会性をもち、地域に貢献する生徒 目指す教師像・・・①確かな教科指導力・生徒指導力を身に付けるため研鑽を重ねる教師 ②生徒の将来を展望し、生徒一人ひとりの理解に努める教師 ③保護者・地域から信頼され、愛される学校づくり邁進する教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p>&lt;成果&gt;スーパーアクティブスクール指定校、江戸川区教育課題実践推進校としての研究を通し、新学習指導要領に沿った教育課程の工夫・改善を進めてきた。その成果として、心身ともに健康で、思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒の育成を進めている。 &lt;課題&gt;教職員の働き方改革を進めながら、前年度までの指導を継続・発展させていく必要がある。また、ICT機器を積極的に授業に取り入れるなど、教科指導法の改善を進めるための研修を積み上げていく。</p>	

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・部活動DVDの作成を作成し、小学校で部活動紹介を行う。 ・生物環境部が育てた菊を、各小学校に送る。	・年2回、部活動紹介DVDの送付と、生活指導部が育てた菊の贈呈による交流を行う。	A	B	・コロナ禍ということから活動の規模を縮小したものの、近隣小学校に部活動紹介DVDを年1回送付し交流を行った。	B	・小中連携を、引き続き続けていってほしい。	・今後も交流を継続し、授業体験、部活動体験を計画・実施していく。
	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・ICT校内研修会の実施 ・授業を見合う週の実施 ・道徳研究授業の実施	・年3回、ICT研修を実施。 ・道徳の校内研究授業を11月に実施。	A	A	・「eライブラリの活用」「情報モラル」を中心にICT研修を実施した。 ・講師を招き、道徳研修を実施した。	A	・タブレットPCの活用などにより、生徒の興味を引き付ける授業をしていってほしい。	・研修を通じてGIGAスクール構想を校内取り入れていく。
教員の資質向上	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・教育相談の実施 ・校内委員会での情報交換 ・エンカレッジルームの活用	・SCとの情報交換を密にし、共通理解を図る。 ・巡回相談員による週1回の指導を実施。 ・臨床発達心理士による年間10回の情報共有を行う。	A	A	・週1回、特別支援委員会を実施し、巡回相談員との情報交換を実施した。 ・SCと週1回、運営会議にて生徒の共通理解を深めた。 ・臨床心理士の助言を指導に生かした。	A	・不登校生徒への丁寧な対応を、引き続き行ってほしい。	・特別支援委員会を継続して実施し、エンカレッジルームの活用、情報交換を密に行う。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・授業を見合う週で互いの授業を見合い、授業改善に繋げる。 ・長期休業日や放課後に補習を行う。	・授業を見合う週を年3回実施する。	A	A	・授業を見合う週を年3回設定し、各教科を超えて授業アイデアなどの共有、授業力向上に努めた。 ・コンピューター室を活用した補習教室を計画的に実施した。	A	・学校全体が落ち着いて授業を受けている生徒が増えている。	・ユニバーサルデザインを学校全体で授業に取り入れ、授業評価を教員同士が常に行い、授業力向上に努める。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	・ビブリオバトル(3年) ・おすすめ本ポスター作成(1年) ・ブックトーク(2年) ・調べ学習(全学年)	・区の研究指定校として行った研究発表の経験を生かし、読書科(調べる学習等)を各教科で実践していく。	A	A	・計画的にビブリオバトル、ブックトーク、おすすめ本ポスター作製を実施し、豊かな心と表現力をはぐくむ読書活動を継続して実施した。	A	・本好きな生徒が多く育ってほしい。	・現在行っている読書科活動を学校の伝統とし、継続・発展させていく。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・授業開始時の補強運動	・毎時の授業で5～8分程度の補助運動を実施し、主運動につながる体力を高める。 ・次年度、新体力テストで8割以上の種目で、都・全国平均の数値を超えられるように土台を作る。	A	A	・保健体育の授業にて1年を通して補助運動を取り入れることで、生徒の体力の向上・維持に繋がった。	A	・授業だけでなく部活動も含めて、活気ある学校であってほしい。	・コロナ禍で体力が落ちないよう、補助運動を計画的に今後も実施していく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・オリパラ講演会の実施 ・オリパラコーナーの掲示物更新	・9月にオリパラ講演会を実施。 ・オリパラコーナーを充実させていく。	A	A	・柔道国際審判員である天野安喜子さんを呼び、オリパラ後援会を実施した。	A	・生徒が興味を感じるものを、今後も実施してほしい。	・オリパラ教育を通じて、生徒の心の成長に繋がるよう努める。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	・ALTの計画的な活用 ・英検の実施	・年2回校内で英検を実施。 ・英語科教員の授業力の向上。	A	A	・ALTとのインタビューを授業に取り入れ、英検の面接に繋がった。	A	・生徒の語学力をより伸ばしてほしい。	・国際交流への興味関心が高まるよう指導する。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・いじめ対策委員会の設置 ・学習ボランティア、ステップサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携による不登校支援	・週1回、いじめ対策委員会のメンバーを含む生活指導部会にて、情報・指導方針の共有を行う。	A	A	・生活指導部会を毎週1回実施し、情報・指導方針の共有を継続して行った。 ・教員、保護者がSC、SSW等に相談できる体制を整え、組織的な支援を行った。	A	・生徒が安心して生活できるように、今後も丁寧な指導をしてほしい。	・いじめ対策を組織的に行い、対処だけでなく未然防止に取り組む。